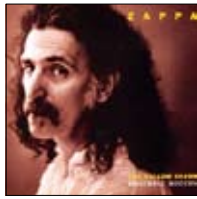


ジャニスの企画魂 Vol.9

現代音楽という名のPOPULAR MUSIC!!



フランク・ザッパ
『THE YELLOW SHARK』

店員A：神田神保町のCDレンタルショップJANISが、この店ならではの企画をぶつけるこのコーナーですが今回のテーマは……なんと現代音楽です！

店員B：でも、現代音楽といってもロックサイドのアプローチ、そしてロックやテクノに影響を与えている現代音楽という切り口で紹介します。まずロックと現代音楽の繋がりで、外せないのが**フランク・ザッパ**です。

店員A：ルール無用、ロック界の偉人であり異人ですね。

店員B：この人はアカデミックな教育も受けていて、クラシックの人からも「カッコ良い！」って評価されています。この『THE YELLOW SHARK』という作品は現代音楽楽団ENSEMBLE MODERNが演奏したものの。

店員A：ザッパはクラシック曲も書いてたりしてますよね。

店員B：でも、委託で書いたクラシック曲の演奏を聴いても、イマイチと思うことが多かったみたい。だけど、このENSEMBLE MODERNの演奏は凄く満足してるらしいんですよ。

店員A：ロックサイドでクラシックの仕事をしている人という意味では、ザッパさんが一番有名ですよ。

店員B：じゃあ、意外なところで**上野耕路**さん。今はキューピーのCM「たらこ・たらこ・たらこ」の作曲で脚光を浴びていますが(笑)。

店員A：上野さんと言えば戸川純さんとやられていたゲルニカが最初に頭に浮かびます。

店員B：実は、上野さんはサントラやゲーム音楽も結構作ってるんですが、この人もクラシックの勉強をされていたんですね。それで、たまにクラシック寄りのアルバムを出すんですが、非常に美しい内容なんです。

店員A：それは知りませんでした。「たらこ」の歌が上野さん作曲というのでも知りませんでした(笑)。

店員B：あと、ちょっと変わってるものだとRADIOHEADの曲を**クリストファー・オライリー**というクラシックのピアニストがカバーしたアルバムがあります。

店員A：ロックのクラシックカバーって、大体ダサいじゃないですか〜。

店員B：これはそういうダサさがない！ シンプルにピアノだけでカバーしていて原曲の美しさが際立ちます。あと弦楽四重奏の**THE BALANESCU QUARTET**は『POSSESSED』という作品でKraftwerkをカバーしています。これは原曲に対する解釈は実験的だけど、演奏はオーソドックス。だからこそ今っぽく聴こえるし、ダサくないです。

店員A：逆にロックやテクノに影響を与えた現代音楽家って、どういう人たちがいるんでしょう？

店員B：例えば電子音楽の先駆者**ビエール・アンリ**。『METAMORPHOSE』という作品はアンリの曲をFatboy SlimやColdcutがリミックスした企画盤です。弟子がお師匠さんのカバーをしたって言えるかもしれない。普通にテクノとして聴いて、カッコいいですよ。

店員A：現代音楽ってワケわかんない音楽ってイメージもあるけど、普通にカッコいい音楽も一杯ありますね。

店員B：そういう意味で**フィリップ・グラス**という音楽家は面白くて、現代音楽では初めてPVを作った人です。私は80年代に「ベスト・ヒット・USA」で、グラスを初めて知ったんですよ。そのときは現代音楽っていうより「カッコいいインストじゃん」って思った。

店員A：その当時のグラスはミニマル・ミュージック寄りの音楽を作っていたんですよ。

店員B：ミニマルの代表と言えば**スティーブ・ライヒ**。彼の作品で人気も高いKronos Quartetが演奏した『Different Trains』があるけど、この曲をライヒ自身が48の弦楽器オーケストラ用にスコアを書き直して作った作品が2003年に出て、それがカッコいいの！

店員A：ライヒの影響を受けてるアーティストは多いですね。さっきRADIOHEADのカバーが出てきたけど、RADIOHEADも現代音楽の影響を受けてるそうですね。

店員B：RADIOHEADのトム・ヨークが『The Eraser』っていうソロアルバムを作ったじゃないですか。彼はその作品で**クシュトフ・ペンデレツキ**に影響を受けていると語ってます。ペンデントツキは宗教曲を多く書いてきて、後期になるほど内省的な曲を書いてる。それはトム・ヨークのソロ作品とも通じる気がしますね。

店員A：ロックフィールドから現代音楽を紹介した人として**フライアン・イーノ**の存在も外せないと思います。

店員B：彼のオプスキュア・レーベルからリリースされた1枚目のアルバムが**ギャビン・ブライアーズ**の『THE SINKING OF THE TITANIC』。

店員A：CD盤はAphex Twinのリミックスが付きます！

店員B：この作品はタイタニック号の沈没がテーマです。実はタイタニックには専属のバンドがいたんだけど、沈みゆく船のなかで自分たちは助からないと自覚して、残された人たちのために演奏をしていたらしいんですよ。

店員A：凄い話ですね。死ぬときに鳴らされる音楽…。

店員B：それをテーマにした作品で、凄く美しい癒しの音楽だと思います。あとオプスキュアの最後の作品が**ハロルド・バッド**の『Pavilion of Dreams』。バッドは「音楽は美しくあるべき」という信念を持ってるんだけど、凄く幻想的な音でジャズの要素も感じます。

店員A：ファラオ・サンダース、ジョン・コルトレーンに捧げた曲が入ってますね。

店員B：現代音楽で括れないアーティストもいるんですよ。ただジャンル分けできなくて現代音楽に入れられてるっていうね。例えば**メレディス・モンク**はパフォーマーなんですけど、彼女が作る曲が「歌」というよりも、ヴォイス・パフォーマンスなんです。縦横無尽にいろんな声を出して構築されてる。その構成がビックリするくらい流麗なんですよ。

店員A：実験的だけど、声というのは最も人間の表現力を持つてるから誰もが親しめる作品になってますね。

店員B：実験的な音楽家としては**ポーリン・オリヴェロス**という人もいます。この人は響きということを意識した活動をしていて、例えば残響が45秒もあるような空洞で演奏したりしてます。アメリカ現代音楽の母と言われているような人なんです。この『Primordial Lift』という作品ではトニー・コンラッドや元GASTR DEL SOLのデビッド・グラブスなんかも参加しています。

店員A：瞑想音楽とも言えるような美しくもドローンな世界。こういう音楽は埋居じゃないですよ。

店員B：多分、アカデミックな教育を受けてる人って、その楽曲の構造を聴き取ったりして楽しむこともあると思うんですよ。そういう特権的な楽しみ方もあるけど、ここで挙げた音楽はそういうことは関係なく、純粋に美しかったり、カッコよかったりする。だから現代音楽は敷居が高いという人がいたら、「そんなことない！」って声を大にして言いたいですね。

ここで紹介したCDが全てJANIS本店で貸りられます!!



上野耕路
『アルト・サクソフォン、ピアノ、弦楽のための三章、他』



クリストファー・オライリー
『True Love Waits』



THE BALANESCU QUARTET
『POSSESSED』



ビエール・アンリ
『METAMORPHOSE』



フィリップ・グラス
『Glassworks』



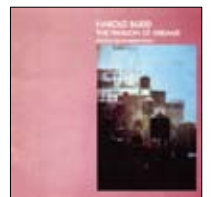
スティーブ・ライヒ
『Different Trains / Triple Quartet / The Four Sections』



クシュトフ・ペンデレツキ
『Complete Cello Concertos』



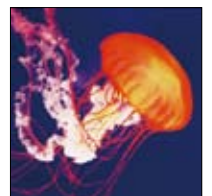
ギャビン・ブライアーズ
『THE SINKING OF THE TITANIC』



ハロルド・バッド
『Pavilion of Dreams』



メレディス・モンク
『Dolmen Music』



ポーリン・オリヴェロス
『Primordial Lift』



JANIS SPACE 企画持ち込み募集中!!

JANIS1号店の下にオープンしたJANIS SPACE。即興ライブ、アコースティックライブ、映像×DJイベント、お笑い×音楽イベントなどイベントスペースとして活用されています。このJANIS的フリースタイルスペースで「何かやってみたい人」を募集しています。詳細はJANIS WEB SITEをCHECKしてください!!

CD RENTAL SHOP JANIS

千代田区神田小川町3-6-9
神田第2アメックスビル9F
TEL：03-3291-9578
http://www.janis-cd.com/

